

Weekly report



株式会社 ミンカブ・ジ・インフォノイド
東京都東京都千代田区神田神保町3-29-1

為替週間展望 = ドル円は 109 ~ 110 円台で一進一退の動きか

[9月13日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		9月6日~9月10日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	109.72	110.45(8)	109.62(9)	109.95	+0.24
ユーロ・ドル	1.1882	1.1886(6)	1.1802(8)	1.1826	-0.0054

=====

国内株・金利/米国株・金利		終値		前週末比	
日経平均株価	30,381.84	+1253.73	日本10年債利回り	0.049	+0.007
ダウ平均株価	34,879.38	-489.71	米10年債利回り	1.297	-0.025

=====

<来週の主要経済統計等>

- 13日 米8月財政収支
- 14日 豪第2四半期住宅価格指数
日本7月鉱工業生産指数確報値
英8月雇用統計
スイス8月生産者輸入価格
カナダ7月製造業出荷
米8月消費者物価指数
- 15日 NZ第2四半期経常収支
日本7月機械受注高
中国8月小売売上高、中国8月鉱工業生産指数
英8月消費者物価指数、英8月生産者物価指数、英8月小売物価指数
ユーロ圏7月鉱工業生産指数
米9月NY連銀製造業景況指数、米8月輸入価格指数
カナダ8月消費者物価指数
米8月鉱工業生産・設備稼働率
- 16日 NZ第2四半期国内総生産(GDP)
日本8月貿易収支
豪8月雇用統計
ユーロ圏7月貿易収支
米8月小売売上高、米新規失業保険申請件数
米9月フィラデルフィア連銀景況指数
カナダ7月卸売上高
米7月対米証券投資
- 17日 英8月小売売上高
ユーロ圏7月経常収支
ユーロ圏8月消費者物価指数確報値
米9月ミシガン大学消費者信頼感指数速報値

【前回のレビュー】米国でのテーバリングは年内のどこかで決定するとみられ、米長期金利は緩やかに上昇する可能性が高まり、これはドル買い要因となりそう。一方で米長期金利の上昇は株価には重石となるため、これは円買いにつながりやすくなる。こうした中、ドル円は110円を中心とするもみ合いとなつた。

【ドル円は110円を挟んでのもみ合い】

3日発表の8月の米雇用統計では、非農業部門雇用者数(NFP)が事前予想の前月比73.3万人増に対して、前月比23.5万人増にとどまったことを受けて、ドル売

りが強まった。ドル円は109.90付近から109.60円近辺まで下落した。

その後のドル円は7日に米10年債利回りが1.38%台まで上昇したことなどを受けて110.30台まで上昇した。110円台前半でもみ合いを見せた後は110円を割り込むなど、110円近辺で目立った方向感なく一進一退の動きを繰り返している。

テーパリングに関しては、今後の米連邦公開市場委員会（FOMC）のどの時点で決定して、いつから開始されるかが焦点となっている。市場では、「11月のFOMCで決定して、12月に開始」「12月のFOMCで決定して、1月に開始」といった見方が広がりつつある。

8月の米雇用統計で非農業部門雇用者数は市場予想を下回ったものの、「テーパリングは年内の11月か12月のFOMCで決定して、12月から来年1月に開始する」との見方は根強い。新型コロナウイルスのデルタ株の感染拡大で経済指標の一部に鈍化が見られたとしても、テーパリング実施へ向けて着実に進むとみられる。

デルタ株の感染拡大が米国経済へ極端な悪影響を及ぼさない限りは、テーパリングは年内のどこかで決定するとみられる。その場合、米長期金利が緩やかに上昇傾向で推移するとみられることから、ドルの下支え要因となりそうだ。14日に発表される8月の米消費者物価指数が特に注目される。パウエルFRB議長が主張しているように「物価上昇は一時的なもの」と認識できるような結果となるかが注目される。

テーパリング観測は米国のハイテク株などの重石となる可能性もあり、その場合は円高に振れる要因となる。こうした中、ドル円は米経済指標や米長期金利の動向に左右されながらも109~110円台で一進一退の動きが継続するとみられる。ドル円の目先の予想レンジは、109.00~111.50円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、13日に米8月財政収支、14日に日本7月鉱工業生産指数確報値、米8月消費者物価指数、15日に日本7月機械受注高、米9月NY連銀製造業景気指数、米8月輸入価格指数、米8月鉱工業生産・設備稼働率、16日に日本8月貿易収支、米8月小売売上高、米新規失業保険申請件数、米9月フィラデルフィア連銀景況指数、米7月対米証券投資、17日米9月シガン大学消費者信頼感指数速報値などがある。

【ユーロドルはもみ合いで推移か】

9日に開催された欧州中央銀行（ECB）理事会では、主要政策金利を据え置いた。注目されたパンデミック緊急購入プログラム（PEPP）の規模に関しては、1兆8500億ユーロに維持することを決定した。また、少なくとも2022年3月までは継続する方針も決めた。なお、債券購入のペースはこれまでの2四半期と比べて緩やかにするとしている。債券購入のペースを緩やかにしても、良好な金融環境は維持可能としている。ECBにスタッフ予想では、今年の経済成長率見通しを6月時点の+4.6%から+5.0%に上方修正した。

米連邦準備制度理事会（FRB）がテーパリングに向けて年内に動き始める方向性を見せており、ECBの出方が注目されていた。こうした中、緩やかに出口を模索する方向性を打ち出した。ラガルド総裁は記者会見で、「ユーロ圏の景気回復は進展している」「回復はワクチン接種の進展で進んだ」など述べた。なお、債券購入ペースの減速はテーパリングではないと強調した。

ECB理事会やラガルド総裁の記者会見を通過した後、ユーロドルは1.18台での振幅となった。方向感が定まらない動きとなっており、ユーロドルは1.18台を中心とするもみ合いで推移するとみられる。ユーロドルの目先の予想レンジは1.1750~1.1900ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、14日に豪第2四半期住宅価格指数、英8月雇用統計、スイス8月生産者輸入価格、15日にNZ第2四半期経常収支、中国8月小売売上高、中国8月鉱工業生産指数、英8月消費者物価指数、英8月生産者物価指数、英8月小売物価指数、ユーロ圏7月鉱工業生産指数、カナダ8月消費者物価指数、

16日にNZ第2四半期国内総生産（GDP）、豪8月雇用統計、ユーロ圏7月貿易収支、17日に英8月小売売上高、ユーロ圏7月経常収支、ユーロ圏8月消費者物価指数確報値などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。